

平成25年度 学校評価総括表

奈良県立登美ヶ丘高等学校

教育目標		自他敬愛に基づく協調の精神に富んだ心豊かな人間性を育成するとともに、自ら定めた目標に向かって意欲的に取り組む態度を育てる。						
運営方針		日々の学習活動を大切にして生徒の進路実現を目指すとともに、学校行事や部活動を通して「知・徳・体」のバランスのとれた生徒を育成する。						
平成24年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標			3		
多くの生徒が真面目に授業に臨みながら、部活動や学校行事に積極的に参加することにより、将来の人生で大きな力となる豊かな人間性や社会性、規範意識の醸成を図ることができた。ただ、自らの将来を見据え、より高い目標を設定し、自主的・意欲的に学力向上に取り組む姿勢の育成には、課題が残った。各教科で指導法の研修や授業研究を進め、今後さらに生徒の意欲喚起に努めたい。		チャレンジ精神の育成	生徒による自主的な学校行事運営を推進するとともに、部活動加入率を高め、さらなる学校全体の活性化を図る。各種資格、検定試験への挑戦を促進し、進路希望実現に向けて早期からの取り組みを呼びかける。					
		主体的に学ぶ力の育成	授業、総合的な学習、BT等を通じて思考力、判断力、表現力を身に付けさせる。学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成に努め、授業公開や教科を超えた授業観察を通じて、授業力の向上と改善に取り組む。					
		「道徳教育実践事業」推進校としての実績の定着	学校生活のあらゆる機会をとらえて、規範意識の醸成とマナーの向上を図る。学校、クラス、個人スローガンを設定し、実践することを通じて、責任感、協調性、行動力を身に付けさせる。					
		学校の組織力強化と教育力の向上	保護者や関係機関、学校関係者との連携を強化し、相互理解を深める。学校評価を活用し、職員が学校運営への参画意識をもつとともに、目標の達成状況や課題を共有し、解決に向けた研修を実施する。					
	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
総務	保護者・各種団体等との連携を深める。	多方面において、育友会・各種団体等との円滑で緊密な連携・協力を行い、本校教育への当事者意識を高める。育友会総会への多くの参加と活性化を図る。	3	3	3	本部役員、並びに学級役員を選考に苦慮するが、選考の期間を早めることにより、その後の日程等にも余裕を持って進めることができている。役員に関心も高く、非常に熱心に取り組んでいただいている。空調設備の設置については、高い評価をいただいている。使用状況によりコストが上がるようであれば、今後使用規定等の検討も必要と思われる。	育友会や同窓会と連携しながら、本校の教育活動を推進する。特に、地域住民との交流を推進していきたい。30周年を迎えるに当たって、本校の教育活動を広報するとともに、いろいろな立場の意見を集約し、本校の活性化を図っていきたい。	
	卒業生との連携を強化する。	堅固な同窓会組織の確立及び定期的な監事会の開催など、活動の活性化を図る。同窓会総会には100名以上の参加を目指す。	3	3		本年度は目標の人数に及ばなかったが、昨年度の卒業生を中心に和やかな内に無事終了することができた。広報面が弱いとのご意見をいただいているので、引き続き今後の課題として取り組みたい。30周年に向けて、より緊密な連携を図っていきたい。		
	式典等の企画・運営と各部との連携を図る。	全校体制による、規律あるうちにも、温もりがあり、心に残る入学式・卒業式の運営を行う。	4	4		本校の伝統を受け継ぎ、厳粛な式を行うことができた。式歌を学年での選択に代え、卒業生が自主的に歌い、より盛り上がる卒業式になっている。		

総合企画	基幹目標の作成、総括会議の主催・運営する。	各分掌、教科、学年の基幹目標をまとめ、学校の教育方針を提示する。また総括会議を主催し、教育活動の検証と来年度への課題を明らかにする。	3	3	3	各分掌・教科・学年から出された基幹目標を、本校の教育方針としてまとめ、「学習評価計画表」として学校経営計画に掲載し、提示した。総括会議が、本校の教育活動の検証となり、来年度への課題を明らかにするためのものになるよう、会議の持ち方に工夫を加えた。	本校の教育活動の見直しの機運が校内で広まっている。年間行事計画を点検し、分掌間の連携を促したい。生徒および保護者を対象としたアンケート結果を受け止め、教育活動に生かせるように検討していきたい。海外語学研修については、その実施方法について今後も検討を続ける。
	年間行事計画の策定、月間行事予定表の作成する。	分掌・学年・教科の事業計画を調整し、年間行事計画を策定する。またそれに基づき月間行事予定表を作り、教育活動の円滑化を図る。	3	3		修学旅行の日程が変更になったことをふまえて、年間行事計画の見直しを提言し、従来より早くから案を提示し、議論し、計画表の作成を進めた。しかし、行事の見直し、精選と言うほど改革はされていないのではないか。様々な行事・取り組み・企画をこなすのに追われているという一面がないだろうか。各分掌・学年の提案を調整して、見やすい月間行事計画表を作成した。	
	各種アンケートの実施する。	各種のアンケート・調査をおこない、保護者、生徒及び校外の人々の学校に対する評価を明らかにし、教育活動に生かせる。	3	3		新入生アンケート、学期末の保護者アンケートを行った。その結果を集計し提示して、本校の教育活動の参考になるようにした。結果の十分な分析はできず、またそれが教育活動にどれほど反映したかという検証はできていない。学校生活アンケートを、総合学習アンケートとタイアップして行う。	
	語学研修の企画・準備をする。	オーストラリア語学研修の実施にむけて研修を企画し、実施にむけて業者との打ち合わせなどの中心的役割を担う。	3	3		今年度研修に行く2年生については、実施にむけて、事前講習を行い、準備を進めた。また来年度の実施にむけて、現1年生対象の説明会及び選考試験を行った。昨年度の研修(3年生)については、報告書を編纂した。また参加生徒が広報活動及び1年生の「総合的な学習の時間」(国際理解教育)で授業を行う指導をした。来年度を含めた今後の研修のあり方について関係分掌と検討し、今後継続的に実施していきやすい形をさぐった。	
	学校案内誌の作成、オープンスクールの計画・実施をする。	学校案内誌『碧き風』の制作、オープンスクールの実施等を通じて本校の良さを内外に伝える広報活動をおこなう。それらを通じて、本校生に愛校心が育つように取り組む。	3	3		7月に進学ガイダンスを実施した。10月のオープンスクールは、スタッフ生徒を組織し、全校的行事として行うことができた。事後のアンケートでも高い評価を得た。さらに時期と方法を検討していきたい。	
教務	新学習要領完全実施に向けた教育課程の編成及びシラバスの取り纏めと編集作業を行う。	平成26年度の教育課程編成に取り組むため、教科間の希望や要望を早期に調整する。また、選択授業の設定や見直し作業を行うとともに、講義室の確保を考える。	3	3	3	新課程に対応する教育課程を編成するため、平成27年度入学生の教育課程表の作成を本年度の早い時期より開始した。4回の教育課程委員会及び5回の教育課程検討委員会を通して、来年度早々に決定できる教育課程表を作成する予定である。講義室を確保することが、次年度も課題である。	生徒の進路希望および本校の目指す生徒像を念頭に置きつつ、教育課程の改善に向けて検討を続ける。
		本年度シラバスの早期取り纏め作業と印刷・配布を行う。	2			配布時期が遅いという反省を生かすことができず、今年度もシラバスの取り纏めや配布の時期が遅くなった。	
		次年度シラバスの作成作業を各担当教員に依頼し、次年度開始とともに生徒へ配布できる環境を作る。	3			配布時期が遅いという本年度の反省を生かし、来年度のシラバスを今年度内に作成することとした。2月21日に締切を設け、来年度早々には配布したい。	
	授業時間の確保及び学力保証のための取り組みを推進する。	時間割変更及び各行事のスムーズな運営により、授業数確保に努める。	3	3	3	スムーズな運営が出来た。行事の精選などを通して、なお一層授業時数の確保に努めたい。	
		授業時間確保のため、チャイムと同時に授業が開始できるようにする。	4			前年度よりも授業時間を確保することが出来た。	
	曜日間による授業時数差の減少に努めるとともに、定期考査前の希望調整を行う。	3			曜日間による授業時数差の減少は、講師の先生方の授業変更が難しく困難であった。ただ、考査前の希望調整により、時数の多寡の大半は解消されていると思う。学校行事等が、ある曜日に偏ることのないよう、出来る限り努めたい。		
	学年や分掌、担任・副担任を超えた協力体制の構築を図る。	3	3		全教員が「倭」に関わることで、総合的な学習の時間が円滑に運営されている。次年度は、仕事や役割内容の精選及び早期計画の徹底により、負担感の軽減に少しでも努めたい。		

生徒指導	基本的な生活習慣の確立とマナーの向上をめざす。	月一回の全校集会と日々のSHRでの指導を行う。	3	4	4	全体的には落ち着いた雰囲気できている。ただ、一部集会等ではじめの付けられない生徒が見受けられた。今後に向けて更に適切な指導が必要となる。	多様な生徒に対応するために、生徒とのコミュニケーションを大切にしつつ、細かく指導を続ける。カウンセラーを活用し、職員研修につとめたい。生徒の規範意識のさらなる向上を目指す。
		週3回の正門と周辺交差点の通学路指導を行う。各学期に1回の自転車通学生集会の開催と安全意識の定着を図る。	3			挨拶、遅刻、服装に関しては概ね成果を上げている。引き続き『日常の何気ない生活』の中で生徒とのコミュニケーションづくりを大切に、遅刻防止、生活・服装・通学マナー等の向上を図っていく。	
		月3回のターミナルおよびバス乗車指導を行う。	4			十分な成果が現れている。来年度も続けていきたい。	
		毎月生活委員会によるクラス・校舎内掲示用の標語とポスターを作製し、登下校マナー等の向上及び啓発活動を行う。	4			生活委員会から生徒昇降口での『挨拶運動や通学路・自転車乗車マナー向上等』の啓発活動が活発に行われている。	
	『毎日全員が、瞳を輝かせ、胸を張って、笑顔で登下校』を目標に、あらゆる機会を通じ、ひとりひとりの生徒理解に努める。	教育相談、特別支援を必要とする生徒の支援と、関係分掌との連携を密にし、明るく健全な生徒の育成に努める。	4	3	4	専門のカウンセラーにも参加して頂き、教育相談に関する研修を充実させ、職員の共通理解をはかると共に、職員全体での協力体制を確立し該当生徒だけではなく、一般の生徒に対する支援も含めて指導したい。	
		アンケート「教えてください」を活用し、面接週間の充実を図り、生徒理解に努める。	3			アンケートの活用に関して学年や職員全体での研修を図り、以後の指導に役立てる。	
		職員と生徒が自然に挨拶をかわす、明るく素直な校風の確立する。	3			1日の始まりは挨拶からを基本にここまでの生活指導を勧めてきている。概ね生徒達に根付いてきているものの、引き続き教員の側からのアプローチが大切と考える。	
		人権教育部との連携を図り、合同ホームルームの充実を図る。	3			各種講演会やHR等、集団の中での繋がりや周囲との協力体制を大切に、特に情報機器等の正しい活用法を理解させる事等、更なる人権意識の向上を図る。	
	部活動の活性化と学校行事を通じて積極的に取り組むリーダーの育成を図る。	生徒会指導部との連携を密にし、学校行事等を充実させ、生徒会役員のリーダーとしての意識を高める。	4	4	4	本年度もリーダー研修会、生徒マナーアップ隊、地域奉仕活動等を充実した内容で行うことが出来た。関係の生徒は、学校行事の牽引者として携われることで、高い意識を持ち、各種の活動を円滑におこなう事ができた。	
		文化祭実行委員会の活動を補佐し、その充実と活性化を図る。	4			生徒会指導部の円滑な企画、運営で公開文化祭等を充実した内容で終えることが出来た。	
道徳教育実践研究事業を定着させる。	個人スローガン、クラススローガン、学校スローガンの策定を通じて規範意識を向上させる。	3	3	3	日頃の生活習慣（挨拶の励行や服装、遅刻、欠席、等）に、規範意識向上の基本が含まれている。気持ちや心の緩みが服装や態度に表れてくる事から、生徒の些細な変化に気づき適切に対応できる事が大切である。		
進路指導	3年生が、向上心を持って、粘り強く努力し、そのことが結果につながるようサポートする。そして、決定した進路が満足なものとなるようにする。	生徒個々に対しては、校外模試を利用した動機付けを行い、スケジュールに基づく学習に取り組ませる。	3	3	3	学年とも連携をとりながら生徒を指導した結果、難関大学をめざす機運が高まった。	講演会などを通して、生徒および保護者の進路に関する関心は高まった。検定などを積極的に受検するようになり、学習への意欲も高まっている。さらに、生徒が志望校への進学を実現するために、教員への情報提供とともに進路指導計画全般について見直していきたい。
		集会・面談等通じた意識付けを行うとともに、大学の学びに対する理解を深めさせる。	3			新学年当初に進路希望別集会を開いたり、大学職員による入試説明会を行った。また、指定校推薦者に対して、2ヶ月間入学前教育を実施し、大学の学びへの理解を深めさせ、プレゼンテーション会も実施した。	
	各学年において、自主的に学習に取り組む姿勢を育てるとともに、高い学習意欲が持てるよう指導する。	BT、実力養成講座を通じて、目的意識を持って自主的に学習する態度を養う。	3	3	3	BTについては生徒はほぼ、真剣に取り組んでいたと思われる。実力養成講座は、内容の充実と受講者数を増やす必要がある。2年生は校外模試の受験教科数を増やし、日頃の授業における意欲の向上にも取り組んだ。	
		1・2年生に対しては、語彙読解力検定・GTEC等、BTと連動した取り組みの中で、結果にこだわる指導を行う。	3			BTと検定試験と連動して実施したことにより、双方において生徒の意識高揚と受検率の向上がみられた。	
	10年後・20年後を見据えたキャリア教育を推進し、将来像を抱かせる。また、今後、身につけていかなければならない社会人として必要な素養を理解させる。	生徒指導部とも連携するなどして、道徳教育をはじめ、職員全体で様々な機会を通じて、社会に必要な要素を自覚した学校生活を送らせる。	3	3	3	職員アンケートの実施や、キャリア教育推進委員会が設置されるなど、学校全体としてキャリア教育に取り組む職員意識が高まっているように思われる。また、本校の取り組みが外部からの評価を得たことも大きい。	
		各講演会・教科・HR・部活動を通じて将来を見据えた指導を行う。	3			1・2年生に対してボケーショナルガイダンス・キャリアガイダンスを開催し、社会人を招いてのパネルディスカッションは効果があった。	

	生徒への指導において、保護者との連携は欠かせない。保護者に対し、必要な情報を伝えるとともに、意思疎通を図る取り組みを行う。	保護者対象の進路説明会を行い、進学・就職に対する理解を深めてもらう。	3	3	保護者対象進路講演会を実施し、保護者の意識の変革をめざした。外部講師も交え、保護者の求める情報を伝えることができたと考えている。		
		配布物を通じて、保護者に対して情報を提供する。	2		保護者への情報提供は、もっと充実させる余地がある。上記のように生徒の意識改革のためにも保護者の意識を高める必要がある。		
	教職員に対して、外部で得た様々な情報・データを示し、教職員全体であるべき指導について共通理解を図る。また、教職員全体で生徒をその気にさせる指導を実践する。	各種の情報提供を行い、研修会を実施するなど、本校の実態と、大学受験の現実に対する共通理解を深める。	2	3	大学訪問等により得た情報を職員に伝えた。研修会については、内容をさらに充実させなければならない。		
	生徒に対して、あらゆる教育活動を通じて、生徒が向上心を持って取り組めるよう指導する。	3	教室へのポスター掲示等によって情報の提供を行った。生徒の意識は変わりつつある。				
人権教育	さまざまな人権問題を自らの課題と考へて、周囲のなかまを合わせて解決していく生徒を育てる。	人権ホームルーム活動の年間計画を再検討するとともに、新たなテーマや題材の設定・資料等の作成に努める。	4	4	3	情報モラルなど人権教育で多様な課題が増えている。生徒の心に響く指導を目指して教材の検討を進める。	
		現実の社会における人権問題について、さまざまな角度から学び、総括的な理解ができるようにする。	3	3			
	他者との個性のちがいをよく理解し、共に社会生活をおくることのできる生徒を育てる。	障害のある人たちとの交流やボランティア活動などの体験を通して、共生社会の在り方について考える機会を設定する。	3	3			
	さまざまな立場の人びとや文化のちがいなどに対して理解を深めさせる。	参加体験型の教材や視聴覚教材等を活用したり、直接話を聞いたりすることで、さまざまな人びとの思いに気づかせる。	3	3			
健康教育	心身の健全な発達とその維持は、すべての生活の基礎であることを十分に認識させ、生徒が集団の中で、健康と安全に関する諸問題を自主的・科学的に解決する能力や態度を養う。	身体測定や各種検診の結果をふまえ、生徒が集団の中で自主的・自発的に心身の健康を維持することができる態度を身に付けさせる。	3	3	3	教科「保健体育」の授業や保健室での保健指導により健康の保持増進や体力の向上について考えさせ、その態度を身につけさせることができた。一方、集団の一員として、集団の健康の保持増進に寄与できる生徒の育成も必要である。	
		各種検診や測定の結果に基づき、生徒が自己の心身の状態を正確に把握し、健康の保持増進と、よりいっそうの体力の向上に対する正しい知識を身に付けさせる。	3				
		学校保健委員会や生徒の保健委員会を通じて、集団の中における科学的・合理的な学校保健の推進に努める。	2				
	運動による健康の保持増進の重要性を理解させる。	各種の体育的活動を通して健康に対する自己管理能力を高め、運動と安全に対する自主的で積極的な姿勢を身に付けさせる。	3	3			自己の心身の状態を正しく把握し、健康の保持増進や体力の向上について正しい知識を身につけることができた。昨年度からカウンセラーを招聘し、保健室・生徒指導部・学級担任が連携し、指導できる体制を維持していきたい。
	食育の推進を図る。	食習慣の把握に努め、正しい食生活の理解と関心を高める。	2	2			「学校保健推進のためのポスター」や「保健だより」だけでなく情報機器等を活用し、さらに広報活動を充実させる必要がある。
美化委員の自主活動を支援する	美化委員会の活動を通して、日常生活の場である校舎・教室等を快適で美しく保とうという意欲と意識を育てる。また、花の栽培を美化委員会に提起し、美化委員による美しい環境を創出する活動を支援する。	3	3	体育の授業を中心に生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎力育成という重点課題は概ね克服できたが、一方、運動嫌いの生徒に対する更なる取り組みが必要である。			
					食育について、生徒指導部や教科「家庭」・「保健」との連携を深め、食育に関するアンケート等を実施し、その実態を把握する必要がある。		
					美化委員の生徒は、文化祭での環境巡視活動に従事し、積極的に環境維持につとめた。また、業者の廃品回収にさいしては、3年生の美化委員を中心によく取り組んだ。また、花いっぱい運動では、チューリップの植え付けによく取り組んだ。以後の水やりなどの取り組みに発展させたい。		

	各学級での美化活動を支援する。	環境倉庫の整理整頓と用具の整備を進め、学級での美化活動にたいしての側面からの支援をする。	3	3	事務室とも連携し、ほうき・ちりとり・クレンザーなどの用具について、整備できた。ただ、黒板消しクリーナーにも含めて、教室の清掃用具のなお一層の充実も必要である。	
	購買の利用の利便性の向上と利用上のマナーの指導。	購買での利用を円滑に進めるために、利用時間等の変更などを適切に連絡する。また、購買との連絡を密にして、生徒の利用の便を図る。さらに、利用状況などを学級担任等に密に連絡をとり、利用マナーの向上につなげる。	3	3	購買では学校の状況をよく把握した上で、運営いただいた。今後も購買との連絡を密にしていきたい。	
文化情報	図書館の有効利用を促進し、生徒の知識欲の高揚に努め、読書習慣を身に付けさせることにより、自ら思考し判断する力や表現力を養う。	各教科・各分掌との連携を図り、必要な資料や情報を提供し、教育課程の展開に寄与する。	3	4	昨年度に引き続き「総合的な学習の時間」の「郷土学習」および「国際理解」、また地歴公民科の夏休みの課題などに図書館が利用され、その都度必要な資料・情報を提供した。本校にない資料についても、奈良県立図書館情報館の「クイックサービス」や、近隣図書館からの現物貸借により対応できた。また、折に触れ「特設コーナー」を設けて読書への興味付けをはかっている。	生徒が図書館を活用するよう広報する。 文化鑑賞会のあり方について、検討を進める。 HPの円滑な運用について、検討を進める。
		読書の推進に努め、年間貸出冊数1人3冊、各学年800冊以上を目標にする。	4		教職員の推薦本・生徒のリクエスト本などの購入、生徒との地道な関係作りを通して、読書の推進が出来た。年間（1月末現在）貸出冊数も、1年は935冊、2年は771冊、3年は800冊、教職員602冊、合計3108冊の貸し出しがあった。一方1冊も借りていない生徒に対する指導が課題である。	
		図書委員会の広報活動を活発にし、ベルマークの収集に取り組み、図書の充実をはかる。	4		図書委員会の広報活動を活発にすることが出来た。隔月発行の図書館だより「LN」6回発行、電子掲示板毎月更新、保護者向け「図書館報」発行（2月末）、古本交換市、クラス対抗ベルマーク集め大会のほか、特に今年度は「本の一節紹介」や文化祭での「絵本読み語り」を行ったところ、好評であった。今後もより多くの生徒に図書室への関心を持たたい。	
	文化・芸術、伝統への理解と認識を深め、豊かな情操を育む。	文化祭における質の高い発表をめざし、文化委員の指導と支援に努める。	3	3	文化委員会は、立て看板・各クラスのポスター・プログラム・表彰（投票用紙・賞状作成や集計）を担い、文化祭を盛り上げる取り組みをした。またクラスへの支援として、文化祭関連の参考図書コーナーを設置した。生徒の文化祭における質の高い発表の支援として、今後どのような方策を考えていくかが検討課題である。	
		文化鑑賞会（舞台）の内容の充実に努め、文化に対する意識を高める。	4		本年度は演劇鑑賞の年で、「わらび座」の「パフォーマンスバンド響」によるミュージカル「走れメロス」を上演し、98パーセントの生徒が「よかった」と回答した。一方、アンケートの結果、鑑賞会の実施時期や方法を見直す意見や、鑑賞会の実施そのものの是非を問う意見も多く寄せられており、授業時間の確保、よりよい環境での鑑賞という観点からも実施の方法と時期について検討する必要がある。	
		百人一首カルタ大会の成功に向けて文化委員会活動を活発にし、日本の古典文化への理解と関心を高める。	3		本年度は実施時期を大幅にずらし、予選は修学旅行中に2時間で実施、本選は2月7日としたので、ゆとりを持って準備できたと思う。決勝大会は1学年の各クラス代表24名によって行われ、今年は各代表とも十分に準備して試合に臨み、高レベルの戦いとなった。来年度は修学旅行の時期が異なるため、実施方法・場所などに検討が必要である。	

情報・視聴覚機器の有効利用を促進し、学習意欲の高揚に努める。	図書室内のパソコン活用を促進し、情報収集の支援をする。	2	2	毎日定期的に使用されており、特にトラブルもなく正しく使われている。まもなくXPのサポートが終了するため、対応が必要である			
	視聴覚室内及び図書管理室内の視聴覚機器の活用を促進し、効果的な授業展開に寄与する。	2		視聴覚教室のプロジェクターは、随時活用されている。書室のデジタルビデオカメラやDVDライターも行事、授業および部活動等で有効活用されている。			
	電子情報機器を適切に管理し、利用を促進する。	3		トラブル無く、適切に管理している。タブレット端末もよく使われている。			
	学習指導におけるネットワークの円滑な運用をはかる。	ネットワークのトラブル等に素早く対応する。	3	3		出来る限りの対応をしたつもりであったが、構成等把握できていない点もあった。	
		情報機器を使った斬新な授業方法を開発する。	3			実物投影機、クリッカーの活用方法を検討しなければならない。	
ネットワークを使った効果的な教科指導法を調査・研究する。		3	「総合的な学習の時間」での積極的な活用がはかられた。				
電子掲示板を使って学校情報を適切に発信する。	4	図書館情報の発信だけでなく、生徒指導部による生徒へのメッセージを流し活発に活用できた。					
ホームページの更新を円滑に行う。	行事に際してできるだけ早くHP更新作業を行う	2	2	担当者が替わってもHPの更新が円滑に出来るような体制作りをしていきたい。			
生徒会指導	生徒会役員の活動を促進し、全校生徒のリーダーとなり得るよう、各自の意欲と資質を高める。	生徒会定例役員会の時間を利用し、生徒会顧問が他校の具体的な実践例を紹介するなどの研修を実施する。具体的には、文化祭運営全般や全体行事、予餞会などの内容について考察させ、またリーダーとして実践させる。	4	4	4	生徒会定例役員会は、ほぼ毎週開催し行事の企画・立案の話し合いを行った。役員・庶務を合わせた15名のスタッフは、「あしなが育英会募金」・「自転車マナーアップ隊」などの運動にも積極的に参加した。庶務を含む1年生の9名は、奈良県の家庭教育啓発チーム「きらら140」のスタッフとして奈良県主催のイベントにも参加し、その中の半数は各パートリーダーとして貢献した。また役員・庶務は、文化祭の企画・立案・運営まで、組織内の連携を図り活発に活動した。	生徒会指導部が発足し、生徒会活動が活性化しつつある。次年度は、さらに活躍の場を与えていきたい。
	生徒会専門委員会の活動を活性化させ、生徒の主体的な活動を促進する。	生徒会の各専門委員会で立案された活動計画により、積極的な活動を行わせる。具体的には、ポスター掲示、スローガンなどの作成にとどまらず、年間2回の各専門委員会委員による登下校時の活動などにより、全校生への啓蒙を図る。	4	4		各専門委員会では、それぞれの活動計画が立案された。代議員会では「制服の着こなしに関する内容」・「体育大会のクラスカラー」などについて、活発に意見交換がなされた。また、生活委員会の「あいさつ運動」は定例の実施となり、生徒への啓蒙活動をより活発化した。	
	生徒会行事の企画・運営を効率的に行う。	各分掌との連携を図り、協力体制を構築して行事等の企画・運営を行う。	3	3		生徒会活動は、分掌相互の協力体制なしでは実施できない。ただ、企画・立案だけでなく、当日の運営に関し、連絡調整が上手くいかなかった場合もあるので、次年度はその点を注意したい。	
	分掌内の分担内容を効率的に行う。	分掌内の分担内容を各部員が理解し、部員相互の協力によりスムーズな運営を図る。	3	3		年度当初には分掌内の役割分担を行ったが、運営上、他の仕事と重なりスムーズに進めることができなかった。次年度はこの点に注意したい。	

第1学年	基本的な生活習慣の確立をはかり、健康的で規則正しい生活を行い、学校生活を充実させる。	日常の挨拶の励行、不注意による遅刻が最小限になるよう努める。	3	3	部活動での指導や教員からも挨拶をすることで、挨拶はおおむねできている。遅刻は2学期以降増えてきた。遅刻の多い生徒には個々に指導している。	遅刻についての指導を徹底していく。部活動と学習の両立をできていない生徒について、適切なアドバイスをする。総合的な学習の時間については、次年度に向けて円滑に進むように検討を続ける。		
		部活動への積極的な参加を促す。	3				約80%の生徒が部活動に参加し、活発に活動している。途中でやめる生徒に対しては、顧問や担任で理由などを聞いて対応している。部活動と学習の両立をめざして、今後も指導が必要である。	
	目標をたて、向上心を持って生活にのぞみ、学習に取り組ませる。授業を大切に、家庭学習も充実させる。自主的に学習する姿勢を養う。	部活動に参加することなどで、個々の生徒がもつ課題を成し遂げられるように励ます。それにより、学校生活を意欲的に取り組ませる。	3	3	3		学年会議で生徒の情報交換を行ったり、教育相談支援室と連携を取り、個々の生徒に対応した。生徒指導も学年全体で取り組み、対象生徒に多くの教員からいろいろなアドバイスが与えた。	
		授業への取り組みを大切にさせ、定期考査で不振であったものを激励する。	3				授業は静かに聞いているが、自発的な学習が見られない。家庭学習の具体的な方法を指導する必要がある。定期考査で不振である者に対しては、担任が個人面談で、点検させその原因を改めるよう指導している。	
		面談やHRなどで自己の将来像を思い描かせ、その実現に向かう姿勢を育てる。	3				夏期休業の課題や職業講話で、自分のすべきことについて考えさせた。進路実現に向けて具体的な行動を起こさせる指導が必要である。	
	学校生活を積極的に取り組み、行事などを通して、生徒の連帯感や協調性を高める。同時に、他者への思いやりや心を育て、互いの違いや個性を認め合い連帯していけるなかまづくりを目指す。	生徒間や生徒と教職員間のコミュニケーションの機会を出来るだけ多く体験させるため、各種委員などの役割を活用し、発表の機会を多くする。	3	3	3		体育大会や文化祭などクラスの取り組みは、担任の指導のもと、各委員が中心となってクラス全員で話し合い、役割分担をして取り組んだ。	
		行事や総合的な学習の時間を通し、自己の役割を果たし、協力して活動をする。	3				総合的な学習の時間では、1学期は壁新聞の作成で、3学期は国際理解教育のグループ発表で、話し合い、協力して新聞の作成、説明資料の作成、発表の分担など、各自が自己の責任を果たした。	
		HRや総合的な学習の時間を通じて、相手を思いやる姿勢や他を認め合う態度を培う。	3				人権教育HRで人権作文を取り上げるときに、人権感覚を身に付けさせる取り組みを行った。総額集の取り組みでは、個々の得手不得手を踏まえた役割づくりが考えられた。人権教育HRにおいて人権について考えるよりよい方法が必要である。	
	基本的な生活習慣の確立をはかり、健康的で規律正しい学校生活ができるようにする。年齢にふさわしい判断力、行動力を持った人間へと成長させる。	生徒の学校での態度・行動に目を配り、生活状況を的確につかみ、必要な助言やアドバイスを行い、規律正しい安定した生活が出来るように指導してゆく。遅刻・欠席については、家庭と連絡を密にして増加を防ぎ、生活の乱れをただしていく。	4	4	4		担任・副担任を中心に、学年を挙げて生徒たちの生活に目を配り状況の把握に努め、適宜指導・支援を行った。昨年度に比べ、行動面や言動に落ち着きが見えてきており、成長が感じられる。遅刻・欠席は全体的に改善傾向にある。改善の見られない特定の生徒に対する、粘り強い指導が必要である。	学校生活や部活動を通して、生徒の成長が感じられる。今後も、きめ細やかな指導を続けていきたい。
		規範意識を養い、問題行動には時宜を得た適切な指導を行う。様々な機会を利用して、中堅学年としての自覚を持たせ、自主性を育て、自らルールを守れるようにしてゆく。	3				規範意識を身につけている。ただ、生徒によっては、希薄な面も感じられるので、生徒の動静をよく観察し、学年全体で、今後も適宜指導を行いたい。学校行事や部活動を通じて、中堅学年としての自覚も出てきており、それに伴う悩みにも直面している生徒もいる。様々な機会	

第2学年	高い人生目標を持ち、向上心を持って学習に取り組めるようにしてゆく。授業にしっかり取り組み、家庭学習を充実させる。学習方法を工夫し、自主的に学習する力を付けさせる。各種検定に積極的に取り組ませる。	BTにしっかり取り組ませるために、定期考査ごとに課題を提出させ、日々の学習活動を点検し指導する。週末には宿題を与え、家庭での学習習慣を定着させる。	3	3	3	BTでは語彙読解力検定やGTECに向けて、学年としてよく取り組めた。週末に課題・宿題を与え、家庭での学習習慣の喚起を促した。数学・英語の補習を継続的に実施し、基礎力の充実を図ることができた。		
		進路について考えさせ、目標を持たせるようにする。進路目標を見すえ、具体的学習方法を自ら考え、自主的に学習する力を付けさせる。	3			進路指導HRや学年集会、また、模擬試験前の指導において、進路についての意識が高まるように語りかけてきた。明確な進路目標を持つ生徒が増え、周りの生徒による影響を与えている。今後は、自分にあった学習方法を見出させるなど、自主的な学習に入れるように指導していきたい。		
	積極的に学校生活に取り組み、行事を通して生徒の連帯感・協調性を高める。互いの個性や違いを認め合いながら連帯してゆける仲間作りをしてゆく。	学校行事に積極的に取り組み、責任を果たす大切さ、協力する素晴らしさを体得させ、仲間意識を高め、団結する集団作りを行う。	3			3		クラスがよくまとまり、校外学習・文化祭・修学旅行などの学校行事に積極的に取り組むことができた。それぞれに自己の役割を果たすことで、責任感と協力することの素晴らしさを体験することができた。
	部活動に積極的に取り組み、人間的成長を果たし、学校生活を充実させてゆく。	3	3	中堅学年としての自覚を持って、積極的に部活動に取り組んでいる。上級生としての役割、後輩への指導助言などを通じて、人としての成長が見られる。部活動が学校生活そのものの支えとなっている者も多い。				
	HRや日常の学校生活で、互いの違いや個性を認め合いながら、連帯感を築けるようなクラスづくり、仲間づくりに努める。互いを支え、高め合える仲間づくりに、あらゆる機会を活用して学年として取り組む。	3		HRや日常の学校生活の中で、互いの個性を認め合い、尊重する空気が感じられる。困っている者を助ける生徒も多くいる。生徒の持つこの優しさを、集団としての「力」として、3年生での進路決定に向けて取り組ませたい。				
第3学年	基本的な生活習慣の確立をはかり、健康的で規律正しい学校生活が出来るようにする。社会に出て行くにふさわしい自立心をもった人間形成を目指す。	生徒の学校での態度・行動に目を配り、生活状況を的確につかみ、必要な助言やアドバイスをし、規律正しい安定した生活が出来るように指導してゆく。遅刻・欠席については、家庭と連絡を密にして増加を防ぎ、生活の乱れを正していく。	3	3	3	担任を中心に、学年を挙げて生徒たちの生活に目を配り、状況を把握し適宜指導した。全体的には3年生らしい態度・言動がとれるようになった。受験のプレッシャーが強まり、体調を崩したりする者が多かったため、遅刻・欠席は2学期に増加した。	部活動を最後まで続け、達成感を味わった生徒が多かった。反面、進路決定に向けた準備が遅れ気味である。入学時より普段の勉学を大切にするとともに心身ともにたくましくなるような指導が必要である。	
	進路についてしっかり考えさせ、自らの目標に向かって、向上心を持って学習に取り組めるようにしてゆく。授業に集中して取り組み、家庭学習を充実させる。学習方法を工夫し、自主的に学習する力を付けさせる。	BTに関して自らテーマ・課題を見つけて自主的に学習し、集中する態度を身に付けさせる。実力養成講座に積極的に参加を呼びかけるとともに家庭での学習習慣を確立させる。	4			4		BTでは4月当初は、落ち着きのない生徒もいたが、2学期に入ると、自らの課題を見つけて学習する生徒が増えてきた。また、去年に引き続き、週末課題を与えるなど意識を高めるように指導した。2月も実力養成講座をしてほしいという要望もあり、前向きに取り組もうとする生徒も見られた。
		HRや日々の学校生活において、自己を見つめさせ、具体的な進路目標を持ち、それに向けて努力出来るように助言・援助・指導してゆく。進路実現のための、基礎学力と応用力を身につけ、授業に集中して取り組めるように指導してゆく。	3			3		普段のHRや学年集会、「学年だより」などを通じて進路を意識させ、目標を持たせて日々の学習に取り組ませるようにした。指定校で決まった生徒へは、進路指導部から課題を与えられ、班ごとにプレゼンテーションをするまで、指導して頂いた。
	学校行事に積極的に取り組み、責任を果たす大切さ、協力する素晴らしさを体得させ、仲間意識を高め、団結する集団づくりを行う。	3	3	学校行事には積極的に参加し、クラスの連帯を高めようとした。生徒会指導部や担任の指導の下に生徒が計画をたてて取り組んだ。				
積極的に学校生活に取り組み、行事を通して生徒の連帯感・協調性を高める。互いの個性や違いを認め合いながら連帯してゆける仲間づくりをしてゆき、他者と共存出来る社会性を身に付けさせる。	部活動に積極的に取り組み、人間的成長を果たし、学校生活を充実させてゆく。学習が単に受験を目的としたものだけにとどまらず、幅広い教養と生きる力となるように、指導する。	3		部活動には最後まで最高学年として一所懸命取り組んだ。部活動を通じて人間的成長を果たした。しかし遅くまでクラブ活動をしてきたため、受験への準備が遅れて、十分な学習ができない生徒がいた。				
	HRや日常の学校生活で、互いの違いや個性を認め合いながら、コミュニケーションを深め、進路実現に向けて一致団結して取り組めるようなクラスづくり、仲間づくりに努める。	3		学校生活を通じてクラスの連帯を強め、学年集会では「コミュニケーションの大切さ」を言いつづけ、支え合って受験に臨むクラス作りを目指した。				

評価基準 4:達成度90%以上 3:達成度70%以上 2:達成度50%以上 1:達成度50%未満